第４回とやま世界こども舞台芸術祭（PAT2022）報告書
Report of the World Festival of Children's Performing Arts in Toyama (PAT2022)

「私たちが未来をきずく」をテーマに、国内外から、69団体、約2,000人の子どもと大人が参加して、令和4年7月30日（土）から8月3日（水）までの5日間、富山市、高岡市を会場に「第4回とやま世界こども舞台芸術祭（PAT2022）」が開催された。

1 開催概要

（1）目的
芸術文化に親しむ子どもと大人が協力して、子どものための舞台公演、交流事業、芸術体験等を行い、子どもの創造性を陶冶するとともに、国際的な文化交流を通して、相互理解と友好親善に資することを目的とする。

（2）テーマ・サブテーマ
テ　ー　マ／私たちが未来をきずく
　　We build the future.
サブテーマ／和・合・美
　　HUB: Harmony, Unity, Beauty

（3）日程
令和4年7月30日（土）～8月3日（水）

（4）会場
富山県民会館、富山市芸術文化ホール（オーバード・ホール）、（以上、富山市）、富山県高岡文化ホール（高岡市）

（5）主催
とやま世界こども舞台芸術祭実行委員会
構成団体：富山県、富山県教育委員会、富山市、高岡市、一般社団法人富山県芸術文化協会、北日本新聞社、NHK富山放送局、富山テレビ放送、国際アマチュア演劇連盟（AITA/IATA asbl）日本センター

事務局：〒930-0096　富山県富山市舟橋北町7-1
富山県教育文化会館内 TEL：076-441-8635（内線123）
FAX：076-442-4635 E-mail：info@pat.or.jp

（6）後援
外務省、文部科学省、一般財団法人地域創造、独立行政法人国際交流基金、公益財団法人放送文化基金、国際アマチュア演劇連盟（AITA/IATA asbl）、公益財団法人日本ユニセフ協会、富山県市長会、富山県町村会、富山県商工会議所連合会、富山県商工会連合会、富山県中小企業団体中央会、一般社団法人富山県経営者協会、富山経済同友会、公益財団法人富山県文化振興財団、公益財団法人富山市民文化事業団、富山県邦楽協会、富山県合唱連盟、富山県オペラ協会、富山県学校吹奏楽連盟、富山県オーケストラ連盟、富山県能楽団体連絡協議会、富山県演劇団体連絡協議会、富山県高等学校演劇研究協議会、富山県日本舞踊協会、富山県洋舞協会、富山県舞台技術研究会、富山県詩吟剣舞連盟、とやま民謡民舞団体協議会、富山県大正琴連盟、富山県太鼓協会、富山県華道連合会、富山県茶道連盟、日本北陸書道院、富山県児童美術研究会、草月会富山県支部燿の会、公益財団法人とやま国際センター、公益財団法人富山コンベンションビューロー、富山県母親クラブ連合会、富山県PTA連合会、公益社団法人日本児童青少年演劇協会、一般社団法人現代舞踊協会、富山新聞社、読売新聞北陸支社、朝日新聞富山総局、毎日新聞富山支局、北陸中日新聞、産経新聞社、日本経済新聞社富山支局、共同通信社富山支局、時事通信社富山支局、北日本放送、チューリップテレビ、一般社団法人富山県ケーブルテレビ協議会、とやまソフトセンター、富山エフエム放送

（7）助成
富山県、富山市、高岡市、射水市、魚津市、氷見市、滑川市、黒部市、砺波市、小矢部市、南砺市、舟橋村、上市町、立山町、入善町、朝日町、独立行政法人国際交流基金、独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人放送文化基金、公益財団法人森村豊明会、公益財団法人松翁記念財団、公益財団法人全国税理士共栄会文化財団、公益財団法人日韓文化交流基金

（8）内容
ア. 舞台公演
富山に集う子どものための又は子どもによる舞台芸術公演。オープニング公演「越中万葉創作舞踊『万葉高志の国』」にはじまり特別公演「12の月たち」、フィナーレ公演まで、海外9団体、県外10団体、県内50団体による本公演を7公演、PAT交流ステージ4公演の合わせて11公演を実施した。

イ. ワークショップ
国内外の経験豊富な芸術家が講師を務め、即興劇や舞踊、いけばなや能楽などの日本文化体験など多種多様な芸術文化活動を学び楽しむとともに友好交流と相互理解を深めた。

また、障がいのある子どもたちと舞台芸術の出会いをつくることを目的にしたコンテンポラリーダンスのワークショップを通して、子どもたちが自由な身体表現を楽しんだ。

ウ. 国際色豊かな展示
参加団体を含めた世界10カ国の子どもたちの作品149点を展示した「世界こども美術展」を県民会館で開催した。また、富山在住の15名の作者による32点の絵画作品を展示したアールブリュット展「PAT & BRUT展」を北日本新聞ギャラリーで開催した。参加国がそれぞれの国の特色を紹介するコーナーも設け、国籍やジャンル、障がいの有無にとらわれない国際色豊かな展示を行い、県民や参加者の相互理解に努めた。

エ. 国際理解

国宝瑞龍寺、海王丸パークへのエクスカーション、記念植樹・お茶会、参加団体がそれぞれミニステージで自己表現して紹介しあう交流会をはじめとする交流事業を通じて、相互理解と友好親善を深めた。

(9)参加者数等

	PAT2022	参考(PAT2016)	参考(PAT2012)
参加国数・団体	10カ国 69団体(海外9、県外10、県内50) ※さらに海外団体は6カ国が映像で参加	24カ国・地域 85団体(海外25、県外16、県内44)	20カ国 79団体(海外18、県外16、県内45)
参加者数	約2,000人	約2,600人	約2,600人
延べ観客数	約10,400人	約23,000人 (県民会館ロビー等+6,000人)	約16,000人
参加ボランティア	約420人	約550人	約500人

(10)特色

ア. 県民からの幅広い支援

献身的に来県者の滞在や交流、公演を支えたボランティアで構成される「とやまこども芸術活動支援協議会」が中心となり、海外・県外団体の受入れ、公演の会場整理、特設レストランの開設、エクスカーション等各種交流事業、協賛物品の依頼など、舞台芸術祭の全般にわたって、企画・運営に参画した。

富山外国語専門学校の学生や過去の世界舞台芸術祭経験者を中心とするボランティア通訳55人が、海外参加者の滞在中のケアやワークショップ、交流事業のサポートなど様々な場面で交流を支援した。

記録写真の撮影や各種交流事業に県内芸術団体が協力した。

多くの県民や企業・団体からの協賛があった(1,000件以上)。

イ. ジュニアボランティア国際交流員の参画

公募による県内中高生110人が、ウェルカム・フィナーレ公演やPAT交流ステージ、交流会の司会・進行、舞台芸術祭宣言文の作成や閉会式における朗読、舞台公演会場サポート、ワークショップや体験コーナー等交流事業の運営に参画した。

ウ. 富山県民会館を主会場にしたイベント展開

県民会館の美術館等を中心に、ハローボード、富山県紹介コーナー、演劇祭メモリアルコーナー、デザイン専門学校生制作の記念撮影ができるフォトスポット、舞台芸術祭記念品の販売ブース設置に加え、海外映像参加6団体の公演VTR放映、高校生による映像参加国とのZOOMインタビュー映像放映、国内参加団体紹介コーナー、海外参加国展示コーナー、世界各国の子どもたちの絵画展示、PATちゃんあんどん展示やPAT交流ステージを行い、多くの県民の皆様に鑑賞の機会を提供することにより、開催期間中の継続した賑わいを創出した。

エ. プレ公演の開催

舞台芸術祭を広く県民に周知し、子どもたちに優れた舞台芸術鑑賞の機会を提供するため、令和元年～4年にかけて県内全市町村でプレ公演全15公演を開催し、県内の小中学生等約3,200人が鑑賞した。

オ. オンライン視聴チケットの導入

国内外へ広くPAT2022の鑑賞機会を提供するため、通常(紙)のチケットでの劇場での鑑賞に加え、公演映像をインターネットで配信する「オンライン視聴チケット」を導入した。有料での配信に加え、海外・県外在住者や当日舞台鑑賞のできない出演者家族、関係者、協賛者への特典の一つとしても活用した。

カ. ケーブルテレビの放映

舞台芸術祭の機運を盛り上げるため、令和3年12月～令和4年1月にかけて、PAT2016のダイジェスト映像を中心に編集したPR番組をケーブルテレビで全県下に放映した。また、本公演の映像は令和4年12月から令和5年1月にかけて全県下で放映。

(11)報道

北日本新聞が積極的に報道し、1カ月前から、これまでのフェスティバルや開催経緯、コロナ禍での準備、進捗、参加団体や演目などをシリーズで紹介した。

期間中は、連日、北日本新聞を中心に県内報道機関で多数報道された。

(12)新型コロナウイルス感染症防止策

出演者や来場者、舞台スタッフ等に対する飛沫の抑制(マスク着用)の徹底や、手指消毒、施設(客席、楽屋)の消毒と換気の徹底、来場者の密集回避、出演者の飲食時の感染防止策、参加者の把握・管理等を行った。

2 開催準備

(1)経緯

昭和58年、置県百年を記念してアジアで初めて国際アマチュア演劇祭を開催。以来、7回の開催実績を踏まえ、平成20年に、

①子どもたちの国際的な文化交流を促進し、子どもたちの視野を広げ新しい文化の創造に資すること

②世界三大アマチュア演劇祭のひとつとして定着させること を目指すこと

③利賀の演劇と併せ、プロ・アマともに世界最高水準の舞台演劇の拠点を目指すこと

をねらいに、対象分野を舞踊や音楽など舞台芸術全般に広げて、4年ごとに舞台芸術祭を開催することとした。

PAT2022は当初令和2年に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響から令和4年開催へ延期した。

【参考1】国際アマチュア演劇祭の開催実績

昭和58(1983)年	富山国際アマチュア演劇祭TIATF'83	(置県百年)	12カ国15団体
昭和60(1985)年	富山国際高校演劇祭TIATF'85	(国際青年年)	11カ国14団体
平成元(1989)年	富山国際青年演劇祭TIATF'89	(富山・高岡両市市制百周年)	24カ国27団体
平成4(1992)年	富山国際アマチュア演劇祭TIATF'92	(第1回ジャパンエキスポ富山JET'92)	24カ国26団体
平成5(1996)年	富山国際演劇祭、国際こども演劇祭	(第11回国民文化祭とやま'96)	24カ国40団体
平成12(2000)年	2000年とやま世界こども演劇祭	(2000年国体)	24カ国24団体
平成16(2004)年	アジア太平洋こども演劇祭		16カ国19団体
平成20(2008)年	第1回とやま世界こども舞台芸術祭		16カ国72団体 (海外18、県外10、県内44)
平成24(2012)年	とやま世界こども舞台芸術祭2012		20カ国79団体 (海外18、県外16、県内45)
平成28(2016)年	とやま世界こども舞台芸術祭2016		24カ国・地域85団体 (海外25、県外16、県内44)
令和2(2020)年	とやま世界こども演劇祭(中止)		
令和4(2022)年	とやま世界こども舞台芸術祭2022		10カ国・69団体 (海外9、県外10、県内50) ※さらに海外団体は6カ国が映像で参加

【参考2】世界演劇祭の比較

	モナコ世界演劇祭	世界こども演劇祭(ドイツ・リンゲン)	世界こども舞台芸術祭(富山)
開始年度	1957年	1990年	2008年
開催頻度	4年に1回	4年に1回	4年に1回
対象年齢	年齢問わず	こども(8～14歳)	大人・こども
対象分野	演　劇	演劇・舞踊	舞台芸術(演劇、音楽、舞踊)
参加団体数	24団体	20団体	41団体(県内除く)

(2)参加の呼びかけ

当初、2020年8月の開催を目指し、2018年6月ドイツ・リンゲンで開催された国際アマチュア演劇連盟総会でプレゼンテーション(舟本幸人副会長、有川圭美事務局長)を行うなど、富山開催をPRした。また同時に開催された「第15回世界こども演劇祭」(和田朝子舞踊研究所出演)で、参加団体による街頭パレードやチラシの配布等により世界各国からの参加者や国際役員へ周知を行った。その後、国際アマチュア演劇連盟のネットワークを通して、「とやま世界こども舞台芸術祭」に関する情報発信を継続的に行った。

コロナ禍に伴う海外からの人流の制限により、2度の延期を経て2022年7月の開催が決まって以降、ホームページを整備し、ソーシャルメディアを使った積極的な周知と参加募集に努めた。

2021年8月にモナコ公国で開催された「第17回モナコ世界演劇祭」における国際アマチュア演劇連盟総会に実行委員会

の舟本副会長ら役員がオンライン出席し、舞台芸術祭の開催告知や参加団体募集の呼びかけを行った。参加に関心がある出席者に対して、個別にオンラインで説明を行った。また、国際アマチュア演劇連盟のネットワークを通して、役員やこれまでの参加団体へ推薦を依頼した。

国内では現代舞踊協会はじめ舞台芸術団体の会議の機会を捉え、事業説明と周知を行い、参加を呼びかけた。

(3)開催・参加団体の決定

2020年8月に開催予定であった「2020年とやま世界こども舞台芸術祭」へは、2019年9月30日の締め切りまでに52カ国・地域より92団体の申し込みがあり、2019年12月4日に開催された国際合同選考委員会（舟本幸人選考委員長、可西晴香実行委員長、ベアトリス・セラリオAITA/IATA asbl会長、ロブ・ヴァン・ヒュネヒテンAITA/IATA asbl副会長、オブザーバー・小泉博実行委員会相談役）によって19カ国20団体（ワークショップ参加含む）が選考された。しかし、2020年4月にコロナ禍に伴い、2021年5月1日～5日へと会期を延期することが決定し、更に2021年3月、「2020年とやま世界こども演劇祭・とやま世界こども舞台芸術祭」の開催を中止することとし、日程を再調整の上、「第4回とやま世界こども舞台芸術祭」として2022年7月30日～8月3日に開催することを発表した。これに伴い、2020年の開催に向けて選出されていた団体へ参加意思を確認し、新しい会期での再募集を行った。2021年6月1日～2022年1月31日までの応募期間には、35カ国46団体の応募があり、上記委員による国際合同選考委員会（オンライン）の再選考の結果、19カ国19団体が選出された。

なお、選考は下記選考基準により厳正に審査、選定した。

令和4年2月の第9回実行委員会（書面）において、海外19カ国19団体、県外10団体を招待することを正式に決定した。

※選考基準は以下のとおりである。

①地域性を考慮し、世界の各大陸から招待する。
②子どもの出演に限らず、「子どもと大人」による要素も受け入れる。
③演劇の分野にこだわらず、他分野の舞台芸術団体を多く選考する。
④富山県と友好提携している地域の団体を考慮する。
⑤質の高さを維持できる団体を選考する。

(4)スタッフ・運営協力

舞台芸術祭の企画・運営にあたっては、実行委員会の構成団体である、富山県、富山県芸術文化協会、劇団文芸座のほか、とやまこども芸術活動支援協議会、可西舞踊研究所等の県内舞踊団体などが中心となって、国際部や登録部、広報部など10部からなる事務局を設置し、準備を進めた。期間中は、幅広い県民の方から参加者の交流支援にご協力いただいた。

（前掲　1開催概要（10）特色 ア. 県民からの幅広い支援・イ. ジュニアボランティア国際交流員の参画）

(5)新型コロナウイルス感染症拡散防止対策

本舞台芸術祭は富山県内の感染症警戒レベルがステージ1（警戒アラート発令中）の状況下で開催した。安全・安心な運営を目指し、下記の対策を実施した。

ア. 飛沫の抑制（マスク着用）の徹底

①一般来場者

・公演会場等において、マスク着用の徹底をアナウンス
・舞台スタッフ、ボランティア、事務局等マスク着用の徹底

②出演者

・海外、県外団体に対してはオリエンテーション時に、また海外参加者へは各日ボランティア通訳からマスクの着用を徹底・注意するとともに、参加団体に対して、オリエンテーション時にこまめな手洗いや手指消毒を徹底
・海外、県外参加者に滞在中の不織布マスクを配布（一人一日一枚準備）
・舞台上での演技時以外はマスクを着用
- 出演団体の楽屋にマスクを設置し、舞台袖まで着用
- 舞台袖にマスクを設置し、出演後に着用して楽屋に戻る

イ. 手指消毒、施設消毒、換気の徹底

・公演会場等において、こまめな手洗いや手指消毒の徹底を促すサイン等設置
・観客入れ替え時には客席等会場内を消毒
・出演団体の楽屋への手指消毒液の配布
・楽屋で出演団体入れ替え毎に楽屋内を消毒及びボランティアスタッフによる換気の徹底
・法令等を遵守した空調設備の設置による常時換気が徹底されている公演会場等を利用

ウ. 来場者間の密集回避

・ワークショップは参加者人数を制限
・招待者、協賛者等の優先入場を実施するなど時間差入場の実施
・いけばな体験や、箏演奏体験などのワークショップ時における参加者間の身体的距離の確保

エ. 飲食時の防止策

・昼食、夕食会場は富山県による感染症対策認証店を利用
・飲食中以外のマスク着用をアナウンス
・食事提供は個食とし、ビュッフェスタイルで実施しない
・PATレストラン（県民会館8Fバンケットホール）、ANAクラウンプラザホテル富山内食事会場では来場者の流れを一方通行とし、密を避ける
・参加者交流会で食事の提供はせず、飲料はペットボトルのみで提供
・楽屋での弁当は黙食を徹底

オ. 出演者等の会期中の感染対策
・海外参加団体は、日本政府による検疫措置に従い、自国出国前72時間以内の陰性証明書を日本到着時に国・地域にかかわらず全員必須で提出
・海外団体のバス利用（成田・羽田等と富山間）は、複数団体の乗り合わせを避け、原則、国別にバスを用意
・宿泊場所は「とやま安心の宿」認証施設利用
・海外、県外団体参加者に対し、有症状者（発熱、風邪等）がいないか、毎日確認
・海外、県外団体参加者に対し、毎朝、抗原検査を実施
・基本的に１楽屋、１団体の使用

カ. 観客の把握・緊急時連絡
・招待者、協賛者チケット利用者などは全て連絡先を把握
・実行委員会事務局購入者、プレイガイドのオンライン購入者は全て連絡先を把握
・上記以外の購入者であってもチケットは全て来場者の氏名、電話番号記入欄を設け、会場入口で記名確認

キ. 抗原検査キットによる検査
・海外団体、県外団体参加者には全員分抗原検査キット（一人一日一個）を配布し、毎日検査を実施
・舞台スタッフには抗原検査キットを提供し、毎日検査を実施

ク. オンラインチケットの導入
・新型コロナウイルス感染症の拡大状況が悪化した場合でも、海外、県内外の希望者に鑑賞の機会を提供し、安全な開催を目指し、一般販売券に加え、オンラインチケットを導入
・オンライン視聴を導入することで新たな観客層へＰＲ
・招待者、協賛者のうち希望者へはオンラインチケットの無償提供
・一般購入者へは基本料金（1,000円）で販売、追加料金で視聴期間の延長も可能とした。

◆視聴可能公演・内容：
公演1～公演7 全7公演（交流ステージは除く）
・オーバード・ホール公演
7月30日（土）、8月3日（水）公演1、2、6、7
ライブ配信及びオンデマンド配信（8月8日より）
・富山県民会館、高岡文化ホール公演
7月31日（日）、8月1日（月）、8月2日（火）公演3、4、5
オンデマンド配信（8月8日より）
※オンデマンド配信の視聴期間は配信開始から3日間～30日間

(6)ユニセフ募金
平和と世界の子どもたちの健やかな成長を願う舞台芸術祭の趣旨にのっとり、今回も県内約300カ所に募金箱を設置した。集まった560,164円を日本ユニセフ協会に寄付した。

(7)広報
ア. プレ公演
令和元年から令和4年6月にかけて、県内全市町村でプレ公演を開催した。国外団体等の演劇などを公演するとともに、本事業の開催告知と事業内容の紹介を行った。
（前掲　1 開催概要 (10)特色 エ. プレ公演の開催）

イ. 舞台芸術祭公式ウェブサイト
国内だけでなく海外からのアクセスにも対応するため、日本語・英語の２カ国語で表記した。国内外からの参加申し込みをオンライン受付するフォームを新設し、開催趣意書、舞台芸術祭のあゆみなどコンテンツを充実させ、舞台芸術祭に関する情報を発信できるようPAT2022公式ウェブサイトをリニューアルした。また、富山県と連携し、富山の観光情報などを掲載するほか、国際アマチュア演劇連盟（AITA/IATA asbl）のホームページにもURLのリンクを掲載し、世界への広報に努めた。

ウ. 県外における広報
総合演劇雑誌「テアトロ」等への掲載を通じて、全国誌で舞台芸術祭をＰＲした。また、東京富山県人会連合会「富山と東京」への広告掲載やチラシ折込、ウェブ広告「ロカド」を使い、全国の舞台愛好者にイベント告知を行うなど、県外への積極的な情報発信に努めた。

エ. 企業・団体の協力
県内の郵便局や、ファミリーマート、イオン・マックスバリュ、ローソン、店舗でのチラシ設置等、幅広いPRに協力いただいた。

オ. ケーブルテレビの放映
舞台芸術祭開催の機運を盛り上げるため、令和３年12月～令和４年１月にかけて、PAT2022のＰＲ番組を全県下に放映した。
（前掲　1 開催概要 (10)特色 カ. ケーブルテレビの放映）

カ. 広報・告知
・北日本新聞及びフリーマガジン等における特集企画・広告
・富山テレビ放送によるイベント広告
・印刷物によるＰＲ、芸文協の既存事業と連携したＰＲ
・県、県教委、関係団体の広報媒体を活用
・ウェブ広告、SNS、ホームページでの告知

(8)県教育委員会との連携
県教育委員会、小中学校長会の協力の下、「教委だより」の記事掲載、県内全小中学生へのリーフレット配付のほか、ワークショップ見学募集、公演鑑賞募集等により、小中学生及び教員の舞台芸術祭への理解促進に努めた。

3　開催成果と今後の取組み

(1)開催成果

ア. 富山県の芸術文化の振興に大きく寄与

世界10カ国69団体の子どもたちのすばらしい演技により観客に多くの夢と希望を与え、国際色豊かで多彩な舞台芸術を富山から国内外に発信した。

イ. 国際文化交流の推進

子どもたちが国境の壁、言葉の壁を越えて友情の絆を深め、県民・国民と子どもたちの交流を促進する国際文化交流のモデルとなった。

ウ. 子どもたちが成長し、未来へ前進する足がかり

真剣に演技やパフォーマンスをする中で、参加した子どもたちが成長し、世界各地で多彩な文化の共存・振興につなげ、世界平和の実現に向けて未来へ大きく前進する足がかりとした。

閉会式では宣言文起草委員会の子どもたちが、芸術文化の力で言葉や文化の違いを乗り越え、未来の世界を創っていくことを高らかに呼びかけた。

エ. 世界三大アマチュア演劇祭の一つに向かって前進

多彩な内容、組織的な運営が国際役員から高く評価され、世界三大アマチュア演劇祭の一つとして定着する実績が積み上がった。

世界の演劇祭への参加、また富山での定期的な国際フェスティバルの開催を通じて、2001年8月に「富山国際アマチュア演劇祭実行委員会」と「モナコ世界演劇祭組織委員会」との友好提携が締結され、2016年7月に「とやま世界こども舞台芸術祭」と「ドイツ・リンゲン世界こども演劇祭」との友好提携が締結された。これらの演劇祭をはじめ、ハンガリー、中国、韓国、チェコの県との提携地域や県芸文協の提携友好団体・学校との連携を強め、人的交流を重ねることで、県内舞台芸術家や児童・生徒の舞台芸術レベルの向上に寄与してきた。

オ. 文化ボランティアの定着

約420人のボランティアの参画により、文化ボランティアの輪がさらに広がり、文化を支える人材・ノウハウ等が定着した。
(前掲　1 開催概要 (9)参加者数等)

(2)今後の取組み

今回の成果をもとに、人材や運営ノウハウを確実に継承し、さらに充実を図り、世界三大アマチュア演劇祭の一つとして定着に努めていく。

ア. 国際的な知名度の向上

国際アマチュア演劇連盟総会や理事会などの機会を通じて、舞台芸術祭を広くＰＲし、国際的知名度をあげる。

イ. 世界の演劇祭との結びつきの強化や舞台芸術レベルの向上

県内では、毎年「とやまこども舞台芸術祭」を開催し、幅広いジャンルの団体に発表の場を設けている。参加団体が出演だけでなく、お互いの演目を鑑賞し合うことで、他ジャンルの演技から刺激を受け、「世界こども舞台芸術祭」開催と参加への機運を高めている。

また、全国の優秀団体が競い演じる「モダンダンス・ガラ」を利賀芸術公園で2005年以降3年に1度開催し、来年(2023年)も開催を予定している。今後も全国からの参加者による富山での魅力ある舞台芸術事業を開催し、全国的な発信を続けるとともに、将来的な世界芸術祭・演劇祭への参加に繋げる。

国際アマチュア演劇連盟が主催する「世界こども演劇祭」(ドイツ・リンゲン、4年毎に開催、前回は2018年に開催)、モナコ世界演劇祭(4年毎に開催、前回は2019年に開催)はじめ、来年(2023年)ハンガリーで開催されるほか世界各地で開催される国際演劇祭等へ県内芸術文化団体の派遣を継続して行い、富山の文化の発信を続け、更に結びつきを強める。参加者は世界の高水準の舞台芸術表現に触れ、レベルの向上を図る。

「ドラマチックダンス『12の月たち』」「ザ・トート・ファミリー」「結婚の申し込み」など、これまで世界舞台芸術祭・演劇祭等で発表をしており、優れた舞台作品の創作を今後も行う。富山の舞台芸術活動で演劇、舞踊、音楽といったジャンルを超えたコラボレーションや国際競演作品の制作と国内外の多くの人々への発表を通じて舞台芸術の質の向上と新たな価値の創造、国際友好親善と芸術文化の推進、青少年の育成を目指す。

今後もこれらの舞台芸術による継続した交流を積み重ね、結びつきを強めることで、富山の子どもたちの国際的な舞台芸術活動の場を広げ、育成を図ることとしている。

ウ. 人材や運営・ノウハウの活用

今回の舞台芸術祭で培った人材や運営のノウハウを、富山で開催する子どもたちの文化活動全般で広く活用する。

エ. 国内広報による発信

国内参加団体の所在都道府県をはじめ、全国都道府県の担当課、公演施設等を中心として、これまでのチラシ等印刷物での周知に加え、インターネットを利用した情報発信を含めた、多様な広報を実施し、幅広い層への発信に努める。